

核戦争防止

兵庫医師の声

第 116 号 2024 年 10 月号

発行 核戦争を防止する
兵庫県医師の会

〒650-0024
神戸市中央区海岸通 1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル
5 F 兵庫県保険医協会内

電話 078 (393) 1807
振替 01130-6-57830

九条の会・兵庫県医師の会 講演会「8 月ジャーナリズム」と私たちの歴史認識

「なぜ戦争に至ったか」の継承を



8 月ジャーナリズムで日本人の「戦争観」が
築かれてきたと解説

米倉氏は、NHK ディレクターとして「クローズアップ現代」や「NHK スペシャル」などを担当しており、現在は映像ジャーナリズムを専門としている。

氏は「8 月ジャーナリズム」とは、「原爆の日」から「終戦記念日」にかけての 8 月前半に、新聞やテレビなどのメディアで戦争関連の特集が集中的に取り上げられることと紹介した上で、多くの日本人の戦争イメージがこの 8 月ジャーナリズムを通じて作られていると指摘。

日本人の「戦争観」は、米歴史学者のジョン・ダワーが指摘するように「自分たちは戦争の犠牲者であり、戦争指導者に騙された」という「強固な被害者意識」と「歴史に関する記憶喪失」に陥っているが、メディアでの戦争の取り上げ方を経時的に分析したところ、空襲や原爆、沖縄戦など日本人の被害について繰り返し取り上げ、犠牲者を悼み、平和へ

「九条の会・兵庫県医師の会」は 7 月 13 日、講演会「『8 月ジャーナリズム』と私たちの歴史認識」を開催し、日本大学法学部の米倉律教授が講演し、会員・市民ら 33 人（来場 27 人、Zoom6 人）が参加した。米倉氏は、戦争被害の記憶だけを取り上げて、自然災害のように戦争を描き平和の重要性を強調するメディアの姿勢を批判し、日本が侵略や植民地支配から戦争に至ったという歴史を継承し、「専守防衛」を掲げる日本国憲法の精神を再確認すべきと訴えた。

の誓いを新たにするが、植民地支配や侵略など日本が行った加害については言及しない特徴があると指摘。

例えば、広島への原爆投下をテーマとすると、被害者の声については詳しく特集するが、広島がターゲットになったのは軍事拠点だったためであるということや原爆を投下したアメリカの責任には言及せず、まるで自然災害のように描きがちであると紹介。

90 年代には、アジア諸国の民主化のもと、各国の元従軍慰安婦・徴用工などが相次いで被害を訴え、「河野談話」「村山談話」が発表されたことで、一時的に加害を扱う番組が急増したが、2000 年代後半から日本の相対的地位低下を背景に社会の保守化が進み、従軍慰安婦をテーマとした NHK の ETV 特集へ

（次のページに続く）

○反核医師の声 (2) ○

(前のページより)

の政治家の介入などを契機として、メディアで取り上げられなくなったとした。

さらに、3 割が「広島・原爆の日」がいつか知らない今、次世代への「継承」を意識した番組、映画等が増加しているが、「日本はなぜ戦争したのか?」「どの国に空襲され、なぜ原爆を投下されたのか?」などの歴史的な背景がなく、抽象化された戦争が描かれており、これは新しい「被害のジャーナリズム」ではないかと指摘。戦争の記憶の継承の前に「なぜ」「何を」継承するのかが問われる必要が

あると強調した。

ヨーロッパでは、帝国主義・植民地主義の「負の遺産」の精算の取り組みが進んでいることなどから学び、侵略、植民地支配から始まった自国の「戦争」を再認識し、それが「現在」をもたらしていると理解すること、その歴史の上でできた日本国憲法の「専守防衛」の精神を再確認する必要があり、政権が繰り返す、「安全保障環境の悪化」を鵜呑みにして報道するメディアのアジェンダ・セッティング力（議題設定機能）が問われていると指摘した。

近畿反核医師懇談会「Don't bank on the bomb」キャンペーン

大樹生命が核兵器製造企業への投融資禁止を表明

保団連・近畿反核医師懇談会が要請

大樹生命は 4 月、ESG 投資方針の一環として、核兵器の製造を行っている企業には投融資を行わないことを発表した。

同社は全国保険医団体連合会（保団連）の保険医年金の事務幹事並びに各保険医協会・グループ保険の共同受託会社であることから、保団連および近畿各府県の協会で作る近畿反核医師懇談会の関係役員・事務局が 2 月 28 日、大樹生命本社で懇談。核兵器製造企業への投融資を行わないよう申し入れていた。

今回の発表は、同社がこの間検討していたもので、「生命保険事業の使命や公共性に鑑み、クラスター弾や生物兵器、対人地雷、化学兵器、核兵器の製造を行っている企業に対する投融資を禁止」するという内容。

「核兵器製造企業への投融資禁止」を明確に表明するのは、生命保険会社としては日本生命に続いて 2 社目。保団連・近畿反核医師懇談会では先に同様の方針を発表した日本生命とも昨年 11 月に懇談を行っていた。

2 月 28 日に行った懇談には、大樹生命から中村寛・運用統括部長、勅使河原雅・ESG 推進担当

室長、山本敬太・公共・広域法人営業部長、保団連・近畿反核医師懇談会から松井和夫・和歌山協会理事、中村新太郎・大阪歯科協会理事、小林登喜生・保団連事務局次長、藤田誠治・兵庫協会事務局長、山本正剛・大阪歯科協会事務局員が参加した。

保団連・近畿反核医師懇談会からは、団体として取り組んでいる、核兵器製造企業への投融資を行わないことを求めるキャンペーン“Don't Bank On the Bomb”（核兵器にお金を貸すな、以下 DBOB）の趣旨を大樹生命に説明。

ノーベル平和賞を受賞した ICAN（核兵器廃絶国際キャンペーン）とイタリアの投資ファンド・エティカファンドが呼びかけている声明「核兵器禁止条約に関する投資家による公開声明」への賛同も要請した。この声明は、全ての国が核兵器禁止条約に参加することを奨励し、投資家に核兵器製造企業に投融資しないことを求める内容となっている。

その上で保団連・近畿反核医師懇談会は、保険医年金を通じて、全国の会員の多大な資金を大

(次のページに続く)

(前のページより)

樹生命に預けていることから、核兵器製造企業に投融資しない方針を明確にすることが、保険医の中での大樹生命の評価を高めることも強調した。

大樹生命の中村運用統轄部長は「日本生命とも連携して投資方針の見直しに着手している。

クラスター爆弾のように、核兵器を非人道的兵器に位置づけて、投融資禁止の検討を社内ですすめている。生保業界の投融資ポリシーからも、同様の趣旨が読み取れるので、当社として独自にそうした方針を持てるよう検討中である」とコメントしており、4月の投融資禁止方針発表につながった。

保険医協会国際部講演会

ジャーナリスト 丸山美和さん講演

ウクライナの現場伝える「自分ごととして考えて」



ウクライナの訪問を続け、物資支援や現地の様子を発信し続けている丸山さん

ウクライナの人たちに、日本にいる私たちができることは――。保険医協会の国際部は8月3日に協会会議室で市民講演会を開催。ジャーナリストの丸山美和さんが「日本にいる私たちができることは？～ウクライナ侵略・現場を歩き続けて～」をテーマに講演し、市民ら48人(うちZoom19人)が参加した。

ウクライナの隣国であるポーランド在住の丸山さんは、大学の講師を務める傍ら、ロシアによる侵攻以降これまで20回以上ウクライナを訪れ、物資支援などのボランティアやジャーナリストとして現地の様子を世界に発信している。

丸山さんは、ウクライナの病院はけがをした兵

士であふれており、満足な食事も提供できない状況であると紹介。

また戦地では体だけでなく心にも大きな傷を負うが、心理的なケアも不足しており、オンラインも含めた医師の派遣が必要だと訴えた。

ポーランドに逃げてきた女性や子どもたちも、住み慣れた生活を突然失ったことから精神的な不安やストレスが深刻になっており、危険だとわかっているにもかかわらずウクライナに帰国を決断した人も少なくないとした。

さらに、移住した子どもが受けるいじめや、「仕事を得るためには健康診断を受ける必要がある」と高額な費用をだまし取ろうとする詐欺など、ウクライナの人々がおかれている現状を紹介。

(次のページに続く)



丸山さんはウクライナの小児病院に撃ち込まれた実際の弾丸を示し、ウクライナの状況に目を向けてほしいと訴えた

(前のページより)

他にも総動員令により 18～60 歳の男性は出国が禁止されていることなど、戦争は「人々が大切にされない」状況を生み出しており、一刻も早い



原水爆禁止 2024 年世界大会・広島

参加記①

「核兵器製造企業に私のお金使ってませんよね？」

東灘区 川西 敏雄 先生

原水爆禁止 2024 年世界大会が、8 月 4 日から 9 日に広島市内・長崎市内で開催された。4 日から 6 日の広島会場には、協会から川西敏雄参与が、明石市の榎林歯科から職員が参加し、広川恵一顧問の医療機関から託された折り鶴を「原爆の子の像」に供えた。会場には 3750 人、オンラインで 1250 人の計 5000 人が参加した。川西先生と榎林歯科職員の岡本氏の参加記を紹介する。

広島での世界大会の開催にあわせ、近畿各府県の協会などで行く近畿反核医師懇談会は、同会で重点的に取り組む DBOB キャンペーンの街頭宣伝を行いました。

DBOB (Don't bank on the bomb) とは、オランダの NGO・PAX が始め、ノーベル平和賞を受賞した ICAN (核兵器廃絶国際キャンペーン) が広げている運動です。和訳は「核兵器をつくる会社にお金を貸すのはやめよう」となります。

金融機関による核兵器製造企業への投融資禁止

停戦を訴えた。

最後に、日本にいる人々には「『評論家』にならず自分ごととして考え、ウクライナの人々に寄り添い続けてほしい」とし、経済支援だけではなく文化交流などを通じて「ともに生きていく仲間」として手を取り合おうと呼びかけた。

会場では、ウクライナ人アーティストのスヴィトラナさんの絵画、ナタリアさんのアクセサリーなどの展示・販売コーナーを設け、多くの参加者が足を止めた。



8 月 5 日、広島駅前でアピールする筆者（右 2 人目）ら近畿反核医師懇談会のメンバー。左 2 人目は川崎哲・ピースボート共同代表

を訴え、世界では現在大きな流れとなっていますが、国内ではまだまだ緒についたところです。

ちなみに、メガバンクではりそな銀行、生命保険会社では日本生命・大樹生命などが核兵器製造企業に投融資しないポリシーを策定しています。

しかし、このような金融機関はまだまだ少数であり、このような宣言を行う国内の金融機関の参

(次のページに続く)

○反核医師の声（5）○

（前のページより）

加が大きく増えることが期待されています。そのための原動力は国民の世論であり、その一環として今回の広島での啓発キャンペーンとなりました。

街宣は、世界大会会場入り口や広島駅前、本通り商店街、りそな銀行前などで行われ、商店街の練り歩きも実施されました。また、5日の分科会でもこのキャンペーンについて、松井和夫・和歌山協会理事が話題提供されました。

今回は「DBOB キャンペーンソング」も用意され、大変好評を得ました。その歌詞を紹介します。

核なき世界をつくる
DBOB って知ってるかい？
核なき未来を目指す活動なんだ
核兵器を作る会社に
お金を貸すのはやめよう
金融機関に呼びかける
大切な運動なんだ

Don't bank on the bomb
核兵器にお金を貸すな
Don't bank on the bomb
子どもたちに核なき世界を
未来の平和をつくる一歩

歌詞を締めくくる「未来の平和をつくる一歩」は、23年の反核医師のつどいで発足した、若手医療・介護従事者が取り組む「いっぽプロジェクト」へのつながりを感じさせられました。

皆様も、取引のある金融機関への一言をお願いします。

「私のお金・預金・生命保険・年金、まさか核兵器製造企業に貸し出されていませんよね」

「DBOB キャンペーンソング」
はこちらからご覧ください！



参加記②

被爆者から聞いた体験 自分なりに伝えていきたい

明石市・檜林歯科職員 岡本 有理子 氏

私は原爆ドームや広島の実況を生まれてこの方見たことがありませんでした。このたび、原水爆禁止世界大会は初めての参加になり、子どもたちの未来のためにも勉強したいと思い、挑みました。

実際に被爆者の方々のお話をお聞きし、5日の分科会では『ヒロシマの声を聞こう』平和公園碑めぐり・被爆者のはなし」へ参加し、実際に爆心地へ足を運び、追体験したことで胸が張り裂ける思いでした。

芦屋市原爆被害者の会会長の千葉孝子さんのお

話では、被爆当時、孝子さんは4歳、お兄様が小学3年生であり、まさにわが子たちの年齢の時に悲惨な体験をされており、涙なしではお話を聞くことができませんでした。原爆投下前には広島上空で何度も偵察されており、朝の8時15分という一番戸外に人が多く出ている時間帯を狙って原爆投下をしてきたと話されており、何とも卑劣で非人道的な行為に怒りが込み上げました。

三戸栄子さんのお話では、被爆当時、栄子さんは4歳。風速200～400メートルの爆風で吹き飛ばさ

（次のページに続く）

○反核医師の声（6）○

（前のページより）

れ、右肘に大きな裂傷と首から上だけが地面に出た状態で埋まっていたとお聞きし、わが子である次男と同じ年齢で壮絶過ぎる体験をされながらも強く生き抜いていらっしゃる姿を見て、核戦争は二度と繰り返してはならないものであることを声に出し続けていく必要があるのだと強く感じました。

原爆の資料館にて、小さな子どもたちの遺品と目を背けたくなるような生々しい写真を見て、ショックでしたが決して目を背けてはいけない。わが子たちに核戦争がいかに残酷で、二度と起こってはいけない出来事であったのか伝えなければと必死で目に焼き付けました。

「伸ちゃんのさんりんしゃ」という絵本を買って帰り、子どもたちに伝えようとしたところ、8歳の長男は黙って絵本を読んだ後、「お母さん、原爆の話聞かせてくれる？」と自分から話を聞きたいと言ってきて、学んだこと全てを話したところ、震え始め、「酷い...でも僕は今幸せで良かった」と声をあげて泣き始めました。泣き出した兄を見た次男も、絵本を読んでほしいと私の膝の上に静かに座りま



広川内科クリニックから託された折り鶴を手
に、世界大会会場で記念撮影。右から3人目が
筆者

した。

私たちの何気ない今日は、生きたくても生きられなかった人たちの今日なのだ。わが国だけではなく全世界の国民に何気ない日常を過ごす権利がある。そのためには核による抑止ではなく、核廃絶を何としても実現させなければならない。

平和行進をすることも、子どもたちに平和の意味を伝えることも、私なりの言葉と行動で平和へのメッセージを伝えられたらいいと思います。

（長崎県保険医協会実施）被爆体験者訴訟の勝訴原告への控訴を取り下げ、被爆体験者問題の合理的解決を求めるオンライン署名にご協力を！

署名の要請内容

2024年8月9日、岸田首相は被爆体験者問題について「課題を合理的に解決できるよう、長崎県市を含めて具体的な対応策を調整する」ことを武見厚労大臣に指示しました。

9月9日、長崎地裁は被爆体験者訴訟の15名の原告を被爆者と認める判決を下しました。

ところが岸田首相は約束を反古し、9月24日、判決を控訴しました。平均年齢は85歳を超えています。これ以上決着を長引かせるのはあまりに酷です。

国、そして被告の長崎県、長崎市は控訴を取り下げ、速やかに全ての被爆体験者を被爆者と認定してください。

署名は
こちら
から！



核戦争を防止する兵庫県医師の会

2024 年度会費 ご入金お願い

いつも反核医師の会にご協力を賜りありがとうございます。全国反核医師のつどいやさまざまな企画開催等、反核医師の会の活動は、皆さまの会費で成り立っています。

同封の振り込み用紙にて新年度会費（年額 5000 円）のお振り込みをお願いします。募金にもぜひご協力ください。